

**令和6年度
第1回いわき市保健医療審議会
食育推進協議部会**

議事録

いわき市保健所 地域保健課

令和6年度 第1回 いわき市保健医療審議会 食育推進協議部会

1 日 時 令和6年8月27日(火) 午後2時00分～午後3時00分

2 場 所 いわき市総合保健福祉センター 3階 健康学習室

3 出席者

委 員	上遠野 恭子	委 員	鈴木 孝治
委 員	大和田 廣子	委 員	月川 奏
委 員	内山 久美子	委 員	塩 昭信
委 員	矢内 花	委 員	田中 淳一
委 員	高木 (代理出席)	委 員	増子 智子
委 員	菅野 栄子	委 員	阿部 有紀子
委 員	菅原 勝人	委 員	鈴木 賢一
委 員	鈴木 由佳	委 員	久保木 幸子

4 事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	小川 俊幸
地域保健課	参事兼課長	小野 勝己
	課長補佐	平山 美香
	主任主査兼係長	半沢 和行
	主任栄養技師	鈴木 知子
	事務主任	澤田 博之

5 議 事

(1) 報告事項

- ・令和5年度の食育推進に係る各課の取り組み状況について
- ・令和6年度の食育推進に係る保健所地域保健課の取り組みについて

(2) 意見交換

- ・各団体における食育の取り組みについて

6 会議の概要

(1) 報告事項

- ・令和5年度の食育推進に係る各課の取り組み状況について
- ・令和6年度の食育推進に係る保健所地域保健課の取り組みについて

発 言 者	内 容
	《事務局の報告に対し、質問・意見等なし》

(2) 意見交換

- ・各団体における食育の取り組みについて

発 言 者	内 容
A委員	今回の会議資料を見て、良い事を行っているが、あまりにも伝わっていないところがあると感じる。やはり食は一番大事だが、いま若い人たちは朝食を食べない人や、みそ汁を飲まない人が多い。核家族が多くなり、食文化が変わってきている事をつくづく感じる。当団体でも、食品ロス等は知っていたが、気持ちを見直さないといけないとあらためて感じた。
B委員	日ごろ意識して見ているため、テレビ・スーパー等で、いわきひとしおについて目にするが、若い人はスーパー等も行かないため、ネットでみられると良いと思う。当団体では、様々な事業を通して、いろいろな職域の栄養士と連携し、食育を意識して取り組んでいる。
C委員	昨年、子どもが生まれ、実際にプレママ・プレパパクラス等に参加し、とても有意義な時間を過ごすことができた。いま離乳食が始まっているが、大きくなるにつれて食の大切さなどを教えていくためにも、積極的にいわき市等の事業に参加していきたいと感じた。
D委員	当団体は、生産者など食材を作る側を支援する団体である。食育の活動としては、保育所等で、いわき市で生産されている果物等を知ってもらう活動や、稲の育て方を教えるという活動をしている。こういった取り組みは毎年実施しており、引き続き地道に続けていきたい。

E 委員	<p>我が家には、幼児から高校生までの幅広い子どもたちがいる。給食がある保育園、小中学生はしっかり食べている印象があるが、高校生になると一気に乱れてしまう感じを受ける。育ち盛りでたくさん食べたいといったところに、うまく栄養がとれるといいと思っているが、物価高で難しいところもある。健康に過ごしていけるように食べ物や食べる事にこだわるような子供になってほしいと思っている。いわきひとしおのパンフレットだが、子ども達も興味を持って見ていた。自分でやってみたいという声もでていた。子ども達は目から見て、興味を持ってくれると思う。季節の地元の素材を使ったレシピ等がスーパーに貼ってあると、簡単にできると思って取り組んでくれると思う。</p>
F 委員	<p>よく噛んで食べる事が、食育においても重要だという話があったが、歯科の分野でも高齢者の口腔機能低下症や、小児の口腔機能発達不全症に対して、2018年から検査や指導が保険でできるようになった。6年経過したが、保険として算定されているのは5%に満たないのが現状である。歯科医師側の認識も低いという事もあるが、一般の方で、自分の子供がよく噛めないという事に気づいていない方や、気づいたとしても相談先が分からないのが現状である。そういった方に対して、よく噛む事の重要性を周知徹底する事が、当団体としての課題のひとつだと思っている。歯と口の健康まつり等で、市民への啓発、周知していきたいと思う。</p>
G 委員	<p>保育園の食育としては、最近では野菜づくりを毎年行っている。自分で収穫して調理して食べるという給食のおいしさを子どもたちに感じてもらいたいと思っている。育てる野菜も子供たちに選んでもらっている。自分で選んだ野菜は、ピーマンやトマトでも頑張って食べようとする。周りの子が食べると、それにのせられておいしいという感覚も芽生えるようで、それがいいのかなと思っている。若者の食育離れという事が先ほど話に出たが、一部で黙食が影響しているのではないかと感じる。黙々と食べる食事というのはおいしさが減ってしまうのではないかと感じる。コロナ禍もあったため、感染対策はある程度した上で、みんなで感想を言いながら食べる環境になればいいと思う。</p>
H 委員	<p>今の若い子供は、魚の骨を口から出すことができない。なにか異物が入っても吐き出す事ができないと感じる。中高生は、勉強と部活が生活の中心で、包丁を持った事がある子供が少ない。高校卒業後は、県内に残る子供は少ないため、県外に行って自分で食事をするときに困らないよう包丁の持ち方等も教えていくことも検討している。</p>

I 委員	<p>当団体としては、心不全・腎不全・生活習慣病・骨粗しょう症等に非常に力を入れている。朝食を食べない低学年や思春期の割合が比較的多いと聞いたが、骨密度のピークになるのが20歳前後ぐらいであるため、それまでに食生活について重点項目にさせていただきたいと思う。パンフレット等で、バランスのいい食事のレシピを紹介するのもいいと思う。</p>
J 委員	<p>今月は、食中毒禁止月間という食品衛生の月間であるため、事業者の広報を行っている。本日の会議で紹介された事を参考にし、これからも推進していきたい。</p>
K 委員	<p>福島県は、特に子供たちの肥満が全国よりも平均出現率が高く、さまざま意識が低いという事もあるため、幼稚園から高校まで切れ目のない食育を推進していく事が重要であると感じている。県教育委員会では、福島食育指針を策定している。具体的な事業としては、ふくしまっごはんコンテスト、小中学校での栄養教室等、6月と11月の「朝食について見直そう週間運動」での朝食の摂取率調査、健康教育の専門家派遣事業を実施している。ふくしまっごはんコンテストについては、昨年度は小中学校あわせて70校合計3030点の応募があった。今年度、栄養教室については小学校16校、中学校3校、高校1校での実施を予定している。朝食の摂取率について、今年の6月にいわき市教育委員会より県にあがってきたが、幼稚園から特別支援学校まで合わせると、95.7%であった。高校が若干低く、89.2%。調査をすると結構高い状況であった。大学に依頼して健康教育の講話を実施する事業については、小学校6校で今年度計画をしている。引き続き連携しながら、食育の推進や栄養の健康教育の推進を展開していきたいと思う。</p>
L 委員	<p>当団体では、郷土食の伝承や地産地消、食生活の改善等の食育活動全般を実践する個人や団体を、ふくしま食育実践サポーターとして登録し、学校等の養成に応じて派遣する、ふくしま食育実践サポーター派遣事業を実施している。いわき市内では、現在26の個人・団体がサポーターとして登録されている。昨年度は4件、121名の小中高の児童生徒に対して講話や調理実習を実施した。本年度は、幼稚園等で、ブルーベリー農園の収穫体験や、ラーメン屋のお仕事体験等の事業を実施したところである。また、福島県産農林水産物の地産地消と食育を推進するため、ふくしま旬の食材等活用推進事業を実施している。昨年度はいわき市では約80校に約870万円の食材費を補助している。県内でも見ても、いわき市は結構利用させていただいて、地産地消に取り組んでいる印象である。</p>

<p>M委員</p>	<p>当団体は、地域との連携について広く活動をしている。高校生についても、作物を育て、自分で調理し、食べる事の感動は大きい印象を受ける。やはり、体験から自分の口に入る事は非常に楽しい事でもあるし、幼稚園生・保育園児と違うところは、自分の作ったものを食べさせたいというところまで高まっているという感触がある。本会議の中でも、課題に出ているように、あまり興味のない層に働きかける事の難しさはすごく感じている。興味がある情報は勝手に目に入ってくるが、興味のない情報は素通りされてしてしまう。若い層は SNS 等にすごく敏感であるため、SNS 等をうまく活用する事がいいのかなと思いつつ事務局の説明を聞いていた。</p>
<p>N委員</p>	<p>いわき市として、魅力的な事業や様々な工夫をして事業を実施しているが、興味をもって見てくれる人には、効果的かと思うが、なかなか目が届かない方をどのように巻き込んでいくかが重要。小学校でも同様である。小学校での主な取り組みで、一番効果をあげているのが、共同調理場の栄養士等による食育の授業である。参観日に実施することで、子供たちだけではなく、保護者向けにも発信していきたい。学校では、生活チェックを実施しており、その中で朝ごはんを食べましたかという項目があり、昼の放送で結果を発表している。日々、振り返りをしながら意識付けを図っている。</p>
<p>O委員</p>	<p>9月～12月の期間において、月に1～2回の料理教室を実施している。最近では減塩の魚料理を実施したが、みなさんにおいしいと言ってもらえた事がとてもうれしく思っている。</p>